

おかしん

2021
4

VOL.801



有松の町並み（重要伝統的建造物群保存地区・日本遺産）

ふれあい探訪

東海道歴史の旅 — 池鯉鮒宿・有松 —

Okashin News まちなかギャラリー / ノベルティグッズ採用作者への記念品贈呈式及び採用作品展
「おかしん先端科学奨学金制度」奨学生による成果発表会

宿場町を訪ねて

ふれあい 探訪

第4回



東海道歴史の旅

徳川家康公によって大きく発展した東海道は
昔も今も変わらない 東西を結ぶ日本の大動脈

池鯉鮒宿・有松

ちりゅう

日本遺産



池鯉鮒大明神と呼ばれ、江戸時代東海道三社の一つに数えられた名社で、第12代景行天皇の頃に創建と言われています。住所：知立市西町神田12 TEL：0566-81-0055

▲知立神社

慶長5年（1600年）、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康公は翌年、五街道（東海道・中山道・甲州街道・奥州街道・日光街道）の整備に着手します。中でも江戸・日本橋から京・三条大橋までの全長約492kmには、宿駅伝馬制度が敷かれ53か所の宿駅が設置されました。これが東海道五十三次です。行政の中心となる江戸と京を結ぶ東海道は、通信業務の円滑な遂行のため、また公用旅行者の便宜を図るために整備され、多くの商人や旅人が行き交い大変賑わいました。

愛知県内の東海道は約78kmで、9か所の宿があり、街道には今も当時の町並みが残されています。「東海道歴史の旅」では、愛知県内の宿場町をシリーズで紹介します。第4回は「池鯉鮒宿・有松」です。



無量壽寺 (むりょうじゅじ)

名勝八橋の中心となる寺で、慶雲元年(704年)の創建と伝えられています。5月に開花する「かきつばた」の名勝地として有名です。境内にある八橋史跡保存館には県指定文化財の方巖売茶竹製笈など数十点の文化財が保存されており、在原業平ゆかりの八橋かきつばたの歴史と文化にふれることができます。

※八橋史跡保存館は文化財等保護のため現在休館中

住所：知立市八橋町寺内61-1

TEL：0566-81-4028



© chiryu city

知立神社 多宝塔 国指定重要文化財

境内に建てられている多宝塔は国の重要文化財であり、古額、舞楽面、能面等は県指定に、獅子頭面などが市指定の文化財になっています。



東海道松並木

並木八丁といわれ、現在は街道沿い約500mに並木があります。池鯉鮒宿を描く浮世絵の題材に多く取り上げられ、宿を代表する風景でした。江戸時代前半にはこの付近で馬市が開催したことで知られています。



馬市の碑



© chiryu city

参考文献・写真提供等 (池鯉鮒宿)

- ・知立市公式HP
- ・知立市観光協会公式サイト「Chiryuppi便り」
- ・愛知県の公式観光ガイドHP「Aichi Now」

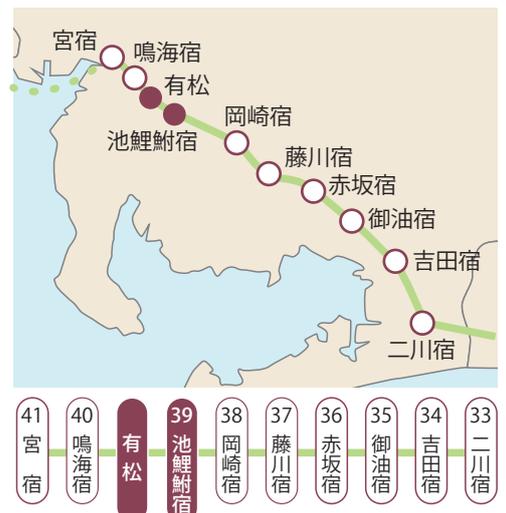


◀池鯉鮒宿のみどころはこちらから

池鯉鮒宿は江戸・日本橋より数えて39番目の宿場です。現在の知立市に位置する池鯉鮒宿が東海道の宿に指定されたのは、関ヶ原合戦の翌年、慶長6年(1601年)のことです。由緒ある知立神社は蝮除けの神社として知られており、旅人が訪れ、旅の安全を祈願しました。また、東海道松並木の周辺では馬市や木綿市が開かれ、東海道交通の要衝を担う宿場町でした。池鯉鮒宿を抜けて鳴海宿へ向かう途中、間の宿として栄えた有松は尾張藩の奨励によって開かれました。有松は、耕地も少なかったため、副業として絞染めを工夫したのが有松絞のはじまりです。絞りのお店を中心に古い町並みが保存されており、2016年、大都市の街道沿いとしては初めて、国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されました。服部邸や棚橋邸など、当時の面影を残した家屋が立ち並ぶ町並みは、往時の風情を楽しむことができます。

池鯉鮒宿・有松

池鯉鮒宿は江戸・日本橋より数えて39番目の宿場です。



東海道歴史の旅 × 池鯉鮒宿・有松の名所を巡る ×

東海道五十三次の39番目 池鯉鮒宿は、西三河一の名社ともいわれる知立神社(池鯉鮒大明神とも称する)の御手洗池に鯉や鮒が多くいたことに由来するといわれています。

池鯉鮒宿と鳴海宿の間に、慶長13年(1608年)藩の推奨により開村された有松。東海道五十三次一の名産品として「有松絞り」が広く親しまれ、広重や北斎の浮世絵にも紹介されています。当時の面影を残した家屋が立ち並ぶ町並みは、江戸時代にタイムスリップしたような風情を味わえます。

※池鯉鮒宿/宿人口1,620人、家数292軒、旅籠35軒、本陣1軒、脇本陣1軒
『東海道宿村大概帳』(江戸時代末期)より

有松の町並み

日本遺産

重要伝統的建造物群保存地区

なまこ壁や格子の町屋が連なる有松の東海道沿いの町並みは、平成28年7月に重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。また、有松地区の文化・伝統を語るストーリーが令和元年5月に日本遺産に認定されました。服部家住宅(井桁屋)をはじめ、江戸期、明治期、昭和前期の時代ごとの主屋を見ることができます。

※個人住宅の内部は非公開です。散策の際には、住民の方のプライバシーに十分配慮していただくようお願いします。

1 小塚家住宅

◆市指定有形文化財 ◆主屋：文久2年頃(1862)建造

小塚家が有松に居を構えたのは、寛文年間(1661~1673)と言われています。卯建をあげる主屋が特徴的で、主屋、水屋、表蔵、南蔵、茶室等の絞商の屋敷構えが一式で残っています。明治期まで絞商を営んでいました。



2 岡家住宅

◆市指定有形文化財 ◆主屋：江戸末期頃建造と推定

主屋は、平入、棧瓦葺、1階には格子をはめ、2階は重厚な塗籠造で、虫籠窓となっており、江戸末期の絞商の主屋の特徴を残しています。



土曜・日曜(年末年始除く)に建物公開しています。
【公開時間】10:30 ~ 15:30
(見学無料)

3 竹田家住宅(竹田嘉兵衛商店)

◆市指定有形文化財 ◆主屋：江戸末期建造

竹田家は、寛保年間(1741~44)に絞業を営んでいた竹田嘉七郎が始まると伝えられています。時代とともに改造されながらも、江戸末期の様式を継承した主屋、14代將軍徳川家茂が訪れたとされる茶室「裁松庵」、明治から大正にかけて整備された土蔵群や洋間、書院座敷、門、堀等が現存し、有力な絞商の屋敷構えの典型例をみることができます。



4 中濱家住宅

◆国登録有形文化財 ◆主屋：明治中期頃建造

当初は絞商の山田与吉郎家の建物であり、平成16年(2004)からは中濱家(中濱商店)の建物として使われています。土蔵の軒先の瓦に「山ヨ」の印が入っており、山田家が所有していた頃の名残が感じられます。



5 服部家住宅(井桁屋)

◆県指定有形文化財 ◆主屋：文久元年(1861)建造

服部家(井桁屋)は、寛政2年(1790)に創業した絞商です。敷地の間口は、有松の中で最大であり、江戸末期から明治30年代にかけて整備された建物が数多く残っています。主屋、絞りの原材料や米を貯蔵するための蔵、接客用の書院座敷などが建ち並び、有力な絞商の屋敷構えを今なおよく残しています。



6 服部良也家住宅

◆県指定有形文化財(土蔵) ◆主屋：明治28年(1895)建造

明治期に創業した絞商(井桁一)の屋敷の大部分が当時のまま残っています。虫籠窓の格子に金属製の丸棒を使用することは、明治期以降にみられる主屋の特徴の一つです。塗籠造、なまこ壁をもつ主屋西隣の土蔵の重厚な外観は行き交う人の目を引きま



7 棚橋家住宅

◆国登録有形文化財 ◆主屋：明治9年(1876)建造

有松を代表する絞商(大井桁屋)の建物として建てられ、昭和8年(1933)からは棚橋医院として約50年間使われてきました。平成23年から3年かけ、屋根の葺き替え、座敷の復原、耐震補強などの大がかりな改修を行いました。



8 有松・鳴海絞会館

有松絞りの歴史や行程・技法をわかりやすく見ることができます。また、衣類や小物、置物など様々な有松絞りの作品の販売も行っています。

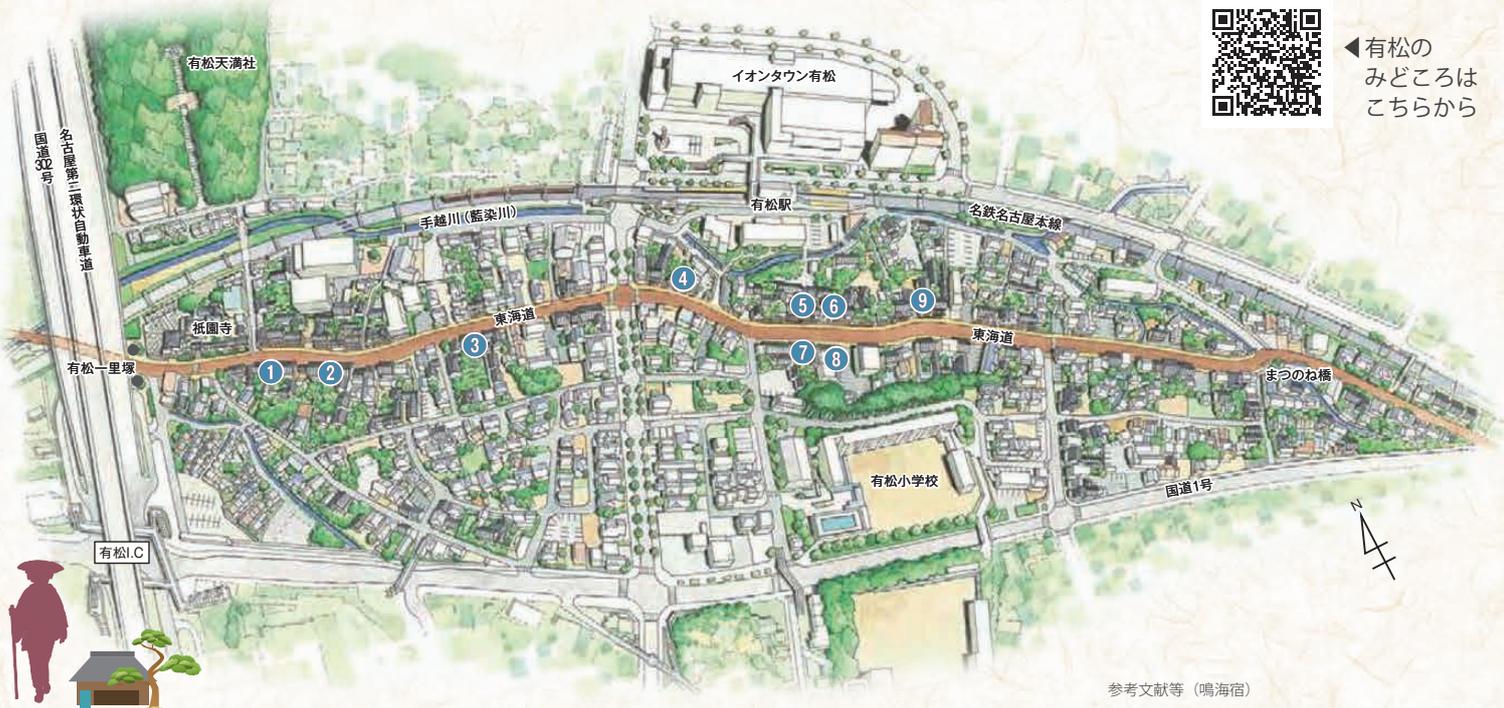
住所：名古屋市緑区有松3008 電話：052-621-0111
開館時間：9時30分～17時(実演は16時30分まで)
入館料(資料室見学)：大人300円ほか
休館日／年末年始(臨時休館あり)、6月第1土日の絞りまつり前後3日間



9 有松山車会館

有松にある山車三輛(布袋車・唐子車・神功皇后車)を毎年交代に展示し、まつり文化を紹介しています。また、「有松山車まつり」の様子をビデオで見することもできます。

住所：名古屋市緑区有松2338 電話：052-621-3000
開館時間：10時～16時 入館料(資料室見学)：大人200円ほか
休館日／月～金曜日(土・日・祝祭日・平日団体予約は開館)、年末年始



◀有松の
みどころは
こちらから

参考文献等(鳴海宿)

- ・名古屋市観光文化交流局歴史まちづくり推進室(写真提供)
- ・名古屋市公式HP
- ・愛知県の公式観光ガイドHP「Aichi Now」

まちなかギャラリー(2021年2月17日(水)～3月10日(水))

当金庫は、障がいがありながらも素晴らしい絵の才能を持つアーティストたちの自立に取り組む一般社団法人アティックアートの活動を応援しています。

愛知県と一般社団法人アティックアートとの連携により、県内24の企業や団体によって障がいのある方の作品をデザイン化し制作されたノベルティグッズとその原画を展示する「まちなかギャラリー」を開催しました。

当金庫がこれまでボックスティッシュ、マスクケース、ウェットティッシュなどのノベルティグッズに採用した原画を多くの方にご覧いただけるよう、本店営業部、知立支店、豊田南支店、花田支店、名古屋支店の各ロビーで展示しました。

2月24日(水)には、当金庫本店営業部ロビーに展示された原画やノベルティグッズを愛知県知事の
大村秀章氏が視察されました。



展示作品を説明する当金庫理事長長田中秀明(左)と愛知県知事大村秀章氏



本店営業部の展示風景

ノベルティグッズ採用作者への記念品贈呈式及び採用作品展

2021年3月21日(日)愛知芸術文化センターにおいて、あいちアール・ブリュット展(2020.9.17～9.22)の展示作品の中から県内18の企業のノベルティグッズ50点にデザインとして採用された作品の作者36名の方に、愛知県、一般社団法人アティックアート、採用企業から記念品が贈呈されました。

当金庫は、野澤将矢氏(クリアファイル)、内藤涼太氏(ウェットティッシュ)、杉浦智哉氏(マスクケース・メモ帳)の3名の方に記念品を贈呈しました。

また、3月16日(火)～21日(日)には採用作品展「あいちアール・ブリュット×アティックアート」を愛知芸術文化センターで開催しました。



本誌人気4コマ漫画「だりやちゃん」の作者で漫画家・いしはらいずみ(本名・石原 泉)氏が令和3年2月17日に逝去されました。「だりやちゃん」は昭和51年1月(1976年)から「おかしん」に連載を開始、これまで45年間(540回)に亘って執筆いただきました。いしはらいずみ氏の功績に感謝するとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。





家康公検定 過去問に挑戦！3

NHK大河ドラマ「麒麟がくる」が本能寺の変をクライマックスに完結し、地域の話は2年後(2023年)の「どうする家康(仮題)」に移ってゆきます。この「本能寺の変」の勃発は、信長に招かれ僅かな家臣団しか従えずに堺(大阪府堺市)にいた家康公にとって、まさに「どうする!? 家康」のときでした。さあ、家康公一行はどのような判断をし、岡崎に戻ったのでしょうか。

問題

本能寺の変を知った家康公の一行が、急ぎ岡崎に帰ったコースはどれでしょうか？

- (1) 伊賀の山中を越え、伊勢からは船を使って帰った。
- (2) 大坂から船で紀伊半島を回り帰った。
- (3) 和歌山に南下し、紀伊半島を横断して帰った。
- (4) 京都から東海道を陸路で帰った。



解説

「^{しんくん}神君伊賀越え」と呼ばれる家康公の大きな危機のひとつです。信長の死を知った家康公は、明智勢と一戦を交え京の知恩院で後を追って死のうと考えたようですが、本多忠勝らの説得によって思いとどまりました。そして最短のコースを通過してまず岡崎に帰り、その後に明智光秀追討の兵を起こそうとしたのです。伊賀越えは夜盗も多く、幾多の危機に直面しましたが、御用商人の茶屋四郎次郎清延の機転や地縁を持つ服部半蔵正成ゆかりの伊賀衆などの助けもあり、無事、伊勢の^{しろこはま}白子浜(鈴鹿市)まで辿り着くことができたのです。



伊賀越え「^{おとぎ}御齋峠」からの眺望(伊賀市)

正解……(1)

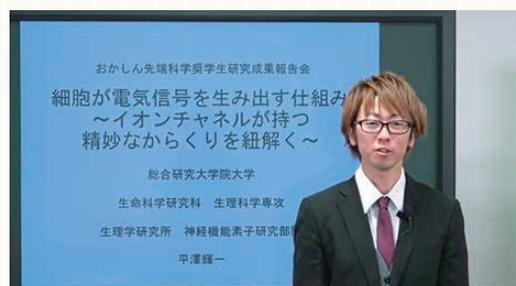
「おかしん先端科学奨学金制度」奨学生による成果発表会開催

2021年2月24日(水)~3月31日(水)、「おかしん先端科学奨学金制度」の奨学生による成果発表会が開催されました。「おかしん先端科学奨学金制度」は、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的に、岡崎市にある「大学共同利用機関法人自然科学研究機構」との地域連携協定に基づき、当金庫が2012年8月に創設した制度です。

本年度は感染症対策のため、初の試みとして、オンライン開催となりましたが、期間中であればいつでもご覧いただけるという動画配信の利点を活かし、多くの方にご視聴いただくことができました。

おかしん先端科学奨学金奨学生 発表テーマ

1. 『ゼブラフィッシュ幼魚で探る、脊髄運動系神経回路の作動様式』
川野幸平氏(基礎生物学研究所/基礎生物学)
2. 『光合成生物が光を集め、時には捨てる仕組み』
渡邊顕正氏(基礎生物学研究所/基礎生物学)
3. 『細胞が電気信号を生み出す仕組み
~イオンチャネルを持つ精妙なからくりを紐解く~』
平澤輝一氏(生理学研究所/生理科学)
4. 『単一分子で発電する有機太陽電池』
Lee, Jihyun氏(分子科学研究所/機能分子科学)



動画配信の様子

修復工事竣工記念

日吉山王社展

～瀧山寺・瀧山東照宮 共に育んだ歴史と文化～

岡崎市北部の『滝町』は、中世以来の歴史に育まれた文化財が数多く集中する地域です。このたび日吉山王社本殿の保存修理工事竣工を記念し、素晴らしい文化財の数々や、それらを後世に継承するための修復・整備活動、また修復工事の様子をご紹介する企画展を開催いたします。



2021年 4月10日(土) ～ 5月30日(日)

会場／岡崎信用金庫資料館

免震化工事を終えリニューアルオープンします!



開館時間：10:00～17:00
(入館は16:30まで)
休館日：月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)
12月31日～1月3日
入館料：無料
住所：岡崎市伝馬町1丁目58
電話：0564-24-2367



※感染症対策のため、入館時の検温・手指消毒およびマスク着用のご協力をお願いいたします

主催：特定非営利活動法人瀧山寺地区文化財を修復・整備する会・岡崎信用金庫 協力：(宗)瀧山寺・(宗)瀧山東照宮・田中杜寺(株)・岡崎市教育委員会

毎月一回発行
発行所 岡崎市菅生町字元菅四一

発行／岡崎信用金庫 編集／地域振興部
電話(〇五六四)二五七二二三(<https://www.okashin.co.jp>)